

第3節 その他一般施設

3-1 スポーツ施設

(1) 施設の概要、設置状況

スポーツ施設は、伊賀市体育施設条例に基づき29の施設が設置されており、本白書では、一定規模の建物を有し全市対応施設である5つのスポーツ施設を対象としています。スポーツ施設は、市民の体育向上及びレクリエーション活動の振興を図るための事業などを行っています。なお、29施設中22施設が指定管理によって運営されています。

施設名称	地区	所管課	設置根拠	施設延床面積	駐車場	運営形態	備考
上野運動公園体育館	上野	スポーツ振興課	伊賀市体育施設条例	1993.00㎡	無	指定管理	公益財団法人 伊賀市文化都市協会に指定管理
伊賀上野武道館	上野	スポーツ振興課	伊賀市体育施設条例	1278.00㎡	有	指定管理	公益財団法人 伊賀市文化都市協会に指定管理
北部公園体育館	青山	スポーツ振興課	伊賀市体育施設条例	624.00㎡	無	指定管理	公益財団法人 伊賀市文化都市協会に指定管理
阿山B&G海洋センター	阿山	スポーツ振興課	伊賀市体育施設条例	2594.67㎡	有	指定管理	公益財団法人 伊賀市文化都市協会に指定管理
大山田B&G海洋センター	大山田	スポーツ振興課	伊賀市体育施設条例	2594.00㎡	有	指定管理	公益財団法人 伊賀市文化都市協会に指定管理

表2-3-1 スポーツ施設の一覧

なお、以上の他、地区体育館が5施設、テニスコートが4施設、グラウンド及び運動公園が12施設、その他にもプールや野球場などがあります。地区別で見ると、上野地区5施設、伊賀地区1施設、島ヶ原地区1施設、阿山地区2施設、大山田地区3施設、青山地区10施設が設置されています。



上野運動公園体育館



大山田B & G海洋センター

(2) 施設の状況

スポーツ施設を構成している8棟の老朽化率の平均は62.6%と老朽化が進行しています。また、8棟中3棟が旧耐震基準であり耐震性が低くなっています。

施設名称	建物名称	延床面積	建築年度	老朽化率	残存年数	主体構造	耐震性	大規模改修	建物性能
上野運動公園体育館	体育館	1352.00㎡	昭和55年度	90.0%	3年	鉄骨造	無	無	1.8点
	体育館(事務所)	641.00㎡	昭和55年度	60.0%	19年	鉄筋コンクリート	無	無	
伊賀上野武道館	武道館	1278.00㎡	昭和58年度	81.0%	6年	鉄骨造	有	無	2.2点
北部公園体育館	体育館	624.00㎡	昭和36年度	100.0%	-3年	鉄筋コンクリート	無	無	1.4点
阿山B&G海洋センター	プール	875.00㎡	平成1年度	56.7%	16年	鉄骨造	有	無	3.0点
	体育館・事務所	1719.67㎡	平成1年度	46.2%	25年	鉄筋コンクリート	有	無	
大山田B&G海洋センター	プール	875.00㎡	昭和63年度	59.4%	15年	鉄骨造	有	無	3.0点
	体育館	1719.00㎡	昭和63年度	48.4%	24年	鉄筋コンクリート	有	無	

表2-3-2 建物性能一覧表

スポーツ施設の建物性能評価点を施設単位で比較した図2-3-1のグラフでは、用途内の平均点(2.3点)が全施設の平均(2.7点)よりも低くなっていることが分かります。特に、上野運動公園体育館(1.8点)と北部公園体育館(1.4点)が低くなっています。

一方で、阿山、大山田B&G海洋センターについては、新耐震基準のため平均よりも点数が高くなっています。

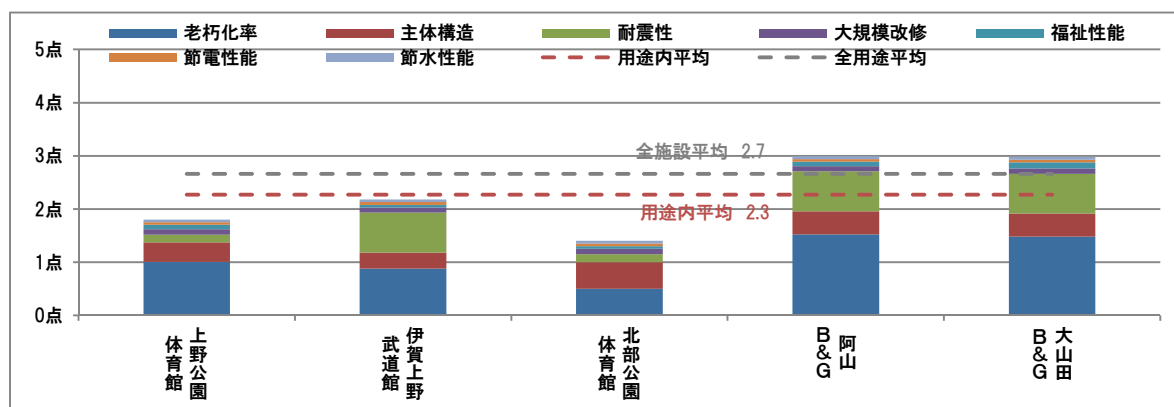


図2-3-1 建物性能評価点の比較（5点満点）

(3) 財務の状況

図2-3-2は、保有コストの過去3年間の推移と面積当たり保有コストを比較したグラフです。スポーツ全体の保有コストは（21,725千円/年）となっています^{※73}。

また、北部公園体育館については、面積当たり保有コストがほとんどかかっていませんが、これは耐用年数を超過し減価償却費がかかっていないためです。

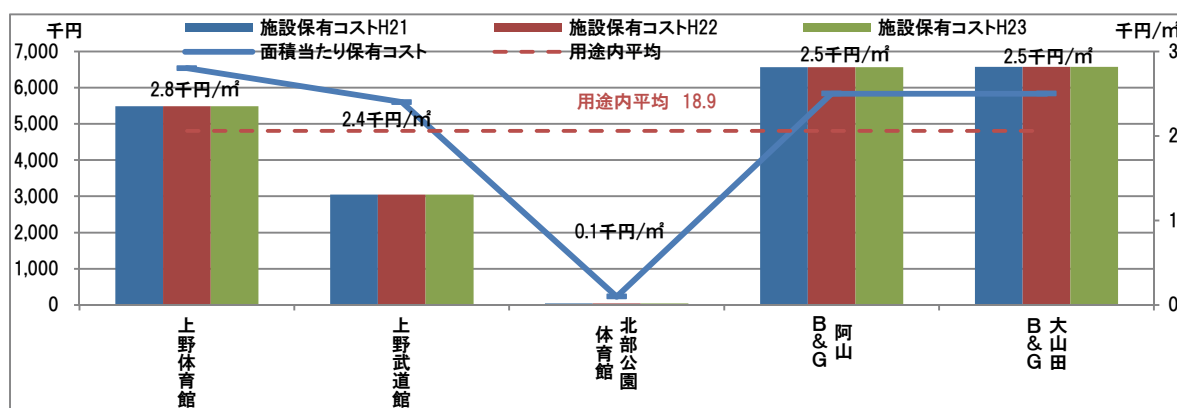


図2-3-2 施設保有コストの推移と面積当たり保有コストの比較

スポーツ施設の総コスト52,118千円/年のうち、指定管理料が23,170千円/年と44.4%を占めています。利用者一人当たりコストについては、用途内平均が356円/人となっています。

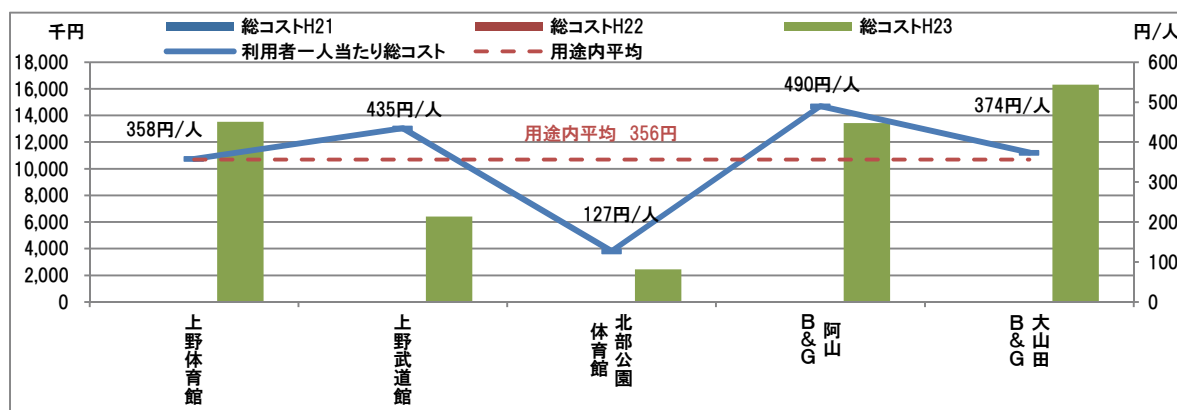


図2-3-3 総コストの推移と利用者一人当たり総コストの比較

※73 スポーツ施設については、指定管理施設のため、光熱水費などがかかっていません。また、指定管理料については個々の施設単位で把握していないため、利用者数の割合に応じて按分しました。

(4) 供給の状況

スポーツ施設の直近の利用者数は、7,055人から28,605人となっています。過去3年間の利用者数の増減率を比較すると、0.1%のから33.3%の増加となっています。

施設名称	利用者数_H21	利用者数_H22	利用者数_H23	増減率	過去4年間の最大利用者数	稼働率
上野運動公園体育館	20,674 人	24,146 人	23,610 人	14.2%	24,146 人	94.5%
伊賀上野武道館	9,852 人	9,056 人	9,885 人	0.3%	17,211 人	55.8%
北部公園体育館	7,046 人	5,860 人	7,055 人	0.1%	7,124 人	93.4%
阿山B&G海洋センター	15,109 人	18,939 人	20,147 人	33.3%	20,147 人	89.7%
大山田B&G海洋センター	24,263 人	25,988 人	28,605 人	17.9%	30,234 人	86.9%

表 2-3-3 スポーツ施設の利用状況

スポーツ施設については、「定員に対する稼働率（定員の算出が困難なため、過去の4年間の最大利用者数を定員と見なしました※74）」を指標として比較を行いました。

稼働率の平均は80%を超えていますが、上野武道館については55.8%と60%を下回っています。

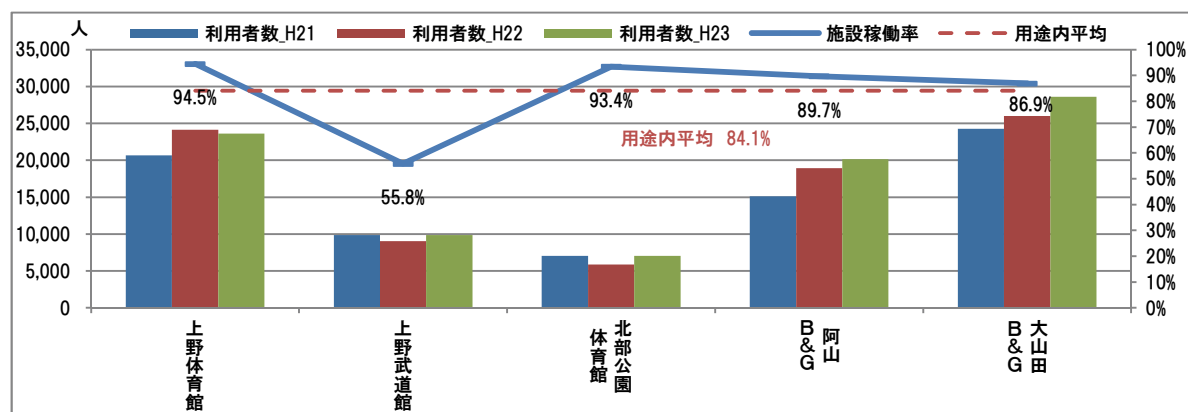


図 2-3-4 利用者数の推移と施設稼働率の比較

※74 「平成 23 年度版伊賀市統計書」<http://www.city.iga.lg.jp/kbn/00555/00555.html> の「91.体育施設利用状況」より過去の最大利用者数を定員としました。

(5) 施設配置状況※75

分析対象とした5つのスポーツ施設は、伊賀市全域にサービスを提供しており、施設の配置状況は以下のとおりとなっています。また、その他にもグラウンドや体育館、テニスコートなどが設置されています。

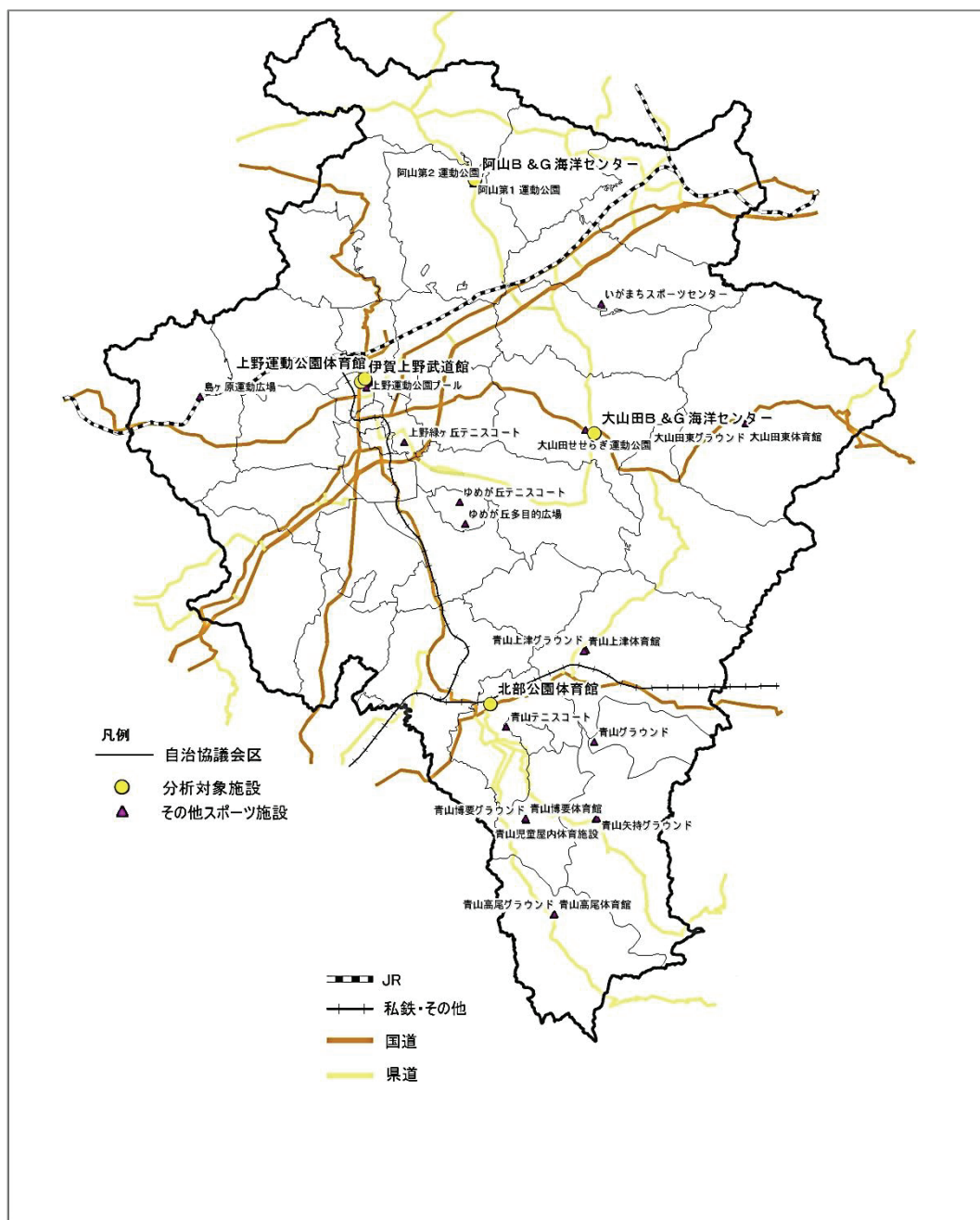


図 2-3-5 スポーツ施設の配置状況

※75 今回の分析対象とした5つのスポーツ施設については、供給エリアが全市、需要者が全市民で共通しているため、需給動向の分析は行っていません。

(6) 現状と課題

<施設>

全体の老朽化率は62.6%と老朽化が進行しています。特に、上野総合運動公園及び北部公園体育館については、老朽化率が90%を超え耐震性が低い建物を有しているため、更新の是非や優先順位を検討する必要があります。

<財務>

指定管理者制度を導入しているため、総コスト52,118千円/年のうち、指定管理料が23,170千円/年と44.4%と大きな割合を占めています。なお、今後具体的な検討を進めていくうえで、個別施設の正確なコスト状況を把握していくことが重要となります。

<供給・需給>

施設の利用者数が増加傾向にあり、稼働率も平均で80%と高くなっています。しかし、本市の人口は減少傾向にあることから、現在設置している29施設の統合や規模の適正化を検討していく必要があると考えます。

なお、個別施設の定員や利用者数の目標値を設定することで、利用率の向上を図ることが考えられます。

